



庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ クロガネモチ ～

(一社)日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

2022年3月4日に「庭のクロガネモチは赤い実を沢山残しているが、葉はほとんどありません。枯れたのでしょうか？」との問い合わせがありました。この樹木は常緑広葉樹ですので、葉がほとんどないということは何らかの異常が発生している可能性が考えられ、3月12日に現地へ出向きました。確かに赤い実は沢山残っていました(写真1)。樹冠の先端部にはわずかでしたが生きている葉が残っており、枝の先端部も柔軟で生きていることがわかり、この木は枯れていないことを確認しました(写真1)。この木は富山県中央植物園でもシイ・カシの森の林縁部に植栽されていますので、3月9日にどのような状況にあるかを観察しました。赤い実はありませんでしたが、写真1と比べれば葉が少し多いものと同じような傾向にありました(写真2)。この段階では、落葉の原因を明らかにすることはできませんでした。

成育期に入った5月15日に再度現地へ出向いて新葉が展開しているか否かを観察しました。たくさん新葉があり、枯れていないことが確認でき、安心しました。富山県中央植物園のクロガネモチも葉量は少ないものの、新葉が発生していました(写真3)。

クロガネモチは暖地性の樹木なので、冬の強い風や厳しい冷え込みのある地域では冬に落葉することが指摘されています。本県はこの木の成育範囲の北限に位置しており、冬には強風や厳しい冷え込みにさらされる地域でもあります。問い合わせをされた方によると、以前はクロガネモチの周りは家屋に囲まれていたが、新築により以前よりも風通しがよくなったとのことでした。富山県中央植物園では林縁部に植栽されているので、風通しはよい状況にあります。そのため、冬の間

に落葉したものと考えられます。冬の間には落葉する現象は暖かい宮崎県でも発生しているようです。この場合は、街路樹として植栽されており、寒さではなく、街路樹という厳しさが原因ではないかと指摘されています。

どちらの場合もクロガネモチの成育環境の悪化が共通しています。通常では4月頃に旧葉が新葉に一齐に入れ替わるのですが、成育条件が悪化したために旧葉が早く落葉したものと考えられます。

対策としては、成育条件を少しでも良くすることです。冬季に緩効性肥料を施すようにすればよいと思います。



写真2 3月9日時点の富山県中央植物園におけるクロガネモチ(赤い□)の状況(左)と枝の状況(右)



写真1 3月12日時点のクロガネモチの状況



写真3 クロガネモチの樹冠(左:写真1の5月15日の状況、右:写真2の5月16日の状況)